

# 金利の上昇と家計

メガバンクが相次ぎ住宅ローンの固定金利を引き上げるなど、金利の上昇が話題になっています。国内では「超低金利」が長く続いたままでした。金利の上昇は私たちの暮らしにどのような影響があるのでしょうか。

**Q 金利はどのように決まるのですか。**

A 金利は大きく短期金利と長期金利に分けられます。短期金利は1年未満、長期は1年以上を指すことが多いです。短期金利は中央銀行が市場に供給する資金の量を調節することで決まります。国内では「無担保コール翌日物」が代表的な指標です。金融機関同士でその日にお金を借りて翌日に返す取引の金利で、足元ではマイナス0.02%ほどです。

**Q 長期金利の場合は。**

A 国債が取引される債券市場で、需要と供給の関係によって決まるのが原則です。一般的には10年物国債の利回りを長期金利の指

は下落しています。  
Q 日本の金利も上がるのでしょうか。

A 米国の長期金利上昇を受け、日本の長期金利も足元でやや上昇しています。しかし、日銀の金融緩和姿勢にはいまのところ変化が見られず、当面は大きな上昇はないとの見方が多いようです。

**Q 私たちの家計にはどんな影響がありますか。**

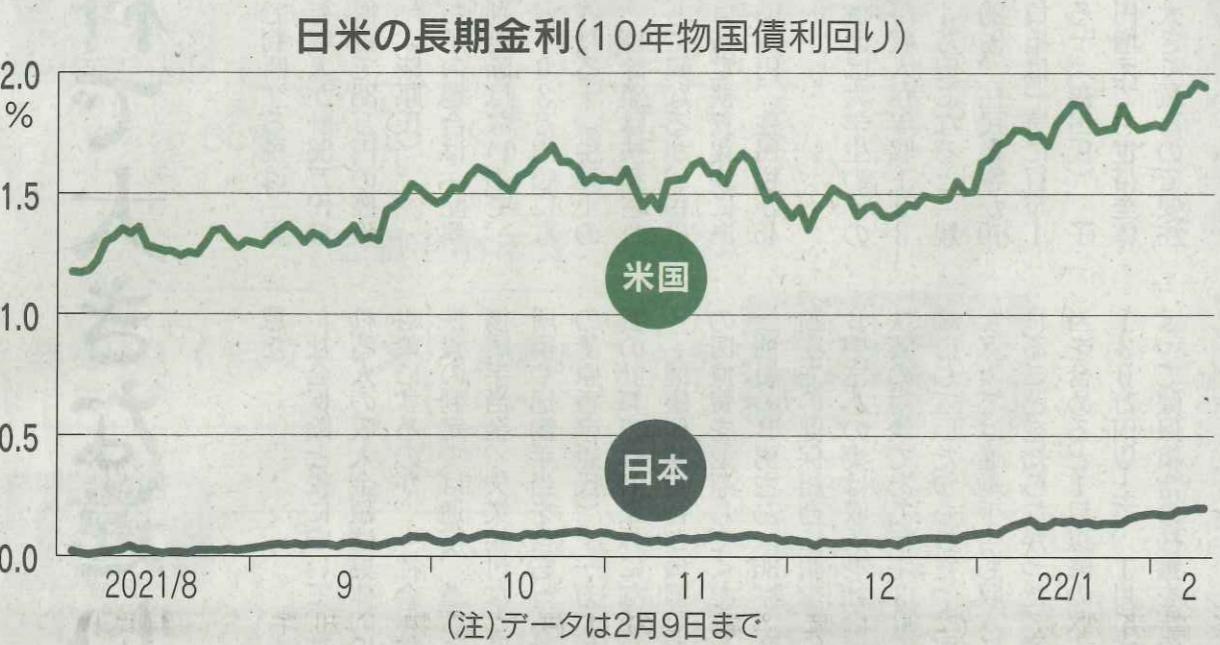
A 日本よりも米国の長期金利上昇が大きくなると、円を売って、より金利の高いドルを買ったほうが得なので、円安・ドル高が進みやすくなります。第一生命経済研究所の熊野英生・首席エコノミストは「円安で輸入物価が上昇し、家計にマイナスの影響が及ぶ可能性が高い」と説明しています。

**Q 仮に日本も金利が上がる**と、どうなりますか。  
A 分かりやすいのが住宅ローンでしょう。長期金利が上がれば固定金利型、短期金利が上がれば変動金利型の借入金利に反映されます。変動型で借りている人は金利負担が重くなります。仮に日銀の金融緩和姿勢に変化があれば、株価が乱高下する可能性も指摘されています。(宮田佳幸)

# 住宅ローン・株価に逆風

## 金利の種類

期間	短期金利	長期金利
	1年未満	1年以上
代表的な指標	日本:無担保コール翌日物 米国:フェデラルファンド(FF)金利	10年物国債利回り
決まり方	中央銀行が市場への資金供給量を調節して水準を決める	債券市場の需給で決まる



## 国債価格と金利の関係

